

礼拝

令和7年9月1日
4号



親切にして相互協同の心

～本校で学んで欲しいと 学園祭の取り組みを通して～

一年の折り返しとなる第二学期を迎えました。そして今月は、大きな行事である学園祭を迎える月でもあります。夏休み前から活動を始めているクラスや学年もあります。本校の建学の精神の一つ「親切にして相互協同」を具体的に実践できる取り組みの一つです。

曹洞宗の開祖である道元禪師が著した『正法眼蔵（しょうぼうげんぞう）』の中に、「菩提薩埵四摂法（ぼだいじつたししょうぼう）」という巻があります。「菩提薩埵（菩薩）」とは覺りを求めながら人々に幸せを授けてくれる仏さまのことをいいます。また、「四摂法」とは、菩薩の修行の中で、私たち

が日常生活の中で行うことのできる四つの行いを示しています。

一、「布施（ふせ）」 自分のためではなく、他の人のため・世の中のために何かを行うことをいいます。また他のためを思うには、自分の好き勝手にしないこと、つまり必要以上に欲張らない気持ちで肝心であることを示しています。例えば世界を治めるような立場になったとしても、正しい道を教えるには欲張らない心が大切なのです。そして、布施そのものの多い少ないは問題ではなく、相手のためになるかどうか最も重要なことだと教えています。

二、「愛語（あいご）」 どんな人に対して、その人の事を第一に考え、その人のためになる言葉をかけることです。他に接するとき、まず相手の心になつて慈悲の言葉（苦しみを除いて楽しみを与える言葉）をかけることです。また一切の暴言・悪言を口にしてはならないということとを、肝に銘じておくことが大切だと教えています。

三、「利行（りぎょう）」 他の人の利益になることに、力をつくすことです。相手の地位や身分にかかわらず、多くの人に幸福な生活ができるような道を教えることです。愚かな者は、他人に利益が生まれると自分の利益がなくなると考えてしまふのですが、それは全く逆の考え方で

あると気づかなければならないと教えています。

四、「同事（どうじ）」 相手のことを思い、相手と同じ立場に身をおき、行動を共にすることです。お互いに協同できる気持ちを持つて行動することにより、自分自身と他の人との間の垣根をなくし、互いに尊敬しあえる存在であることに気づいていくことを教えています。

「布施・愛語・利行・同事」は、私たちが生きていく上で、自分と他の人との関わりについて説かれた大切な教えであり、日々に行うべきことなのです。本校の校訓の一つである「親切にして相互協同」の実践は、まさに四摂法を基盤とした生活であると言えます。

永平寺の住職をされていた宮崎奕保（みやざき ぎほ）禪師は「一日の真似は一日の真似、三日の真似は三日の真似。一生真似れば本物だ。」つまり「一日だけ仏道修行の真似をして終えたなら、それは一日分の真似をしたに過ぎないが、真似であったとしても一生続ければ、それはあなたにとって本物になります。」と何度も何度もお話しされたそうです。四摂法を今すぐ身につけるのは容易なことではありませんが、学園祭の取り組みがその一歩になることを願います。そして、日々の積み重ねによって校訓に根ざした生き方が本物になっていくことを願います。